

地域社会 研究

第13号

2006.12.20

地域通貨とコミュニティ(3)

.....秋田 清 1

新しい市民参加と討議デモクラシーとの連関

.....篠藤 明德 12

脳からみた情報化社会

.....西村 靖史 18

沖縄ルポ 92歳のハルさんのお話

.....富吉 素子 22

ダンボールコンポストの不思議な魅力

.....長尾 秀吉 26

第3回 日本ブラーヌクスツェレ研究会開催

.....篠藤 明德 30

「別府土曜教室」について

.....阿部 京子 31

石村 秀登

朝地町「地域通貨」コア

.....秋田 清 32

平成18年度(2006)活動記録

..... 33

別府大学地域社会研究センター

第3回 日本プランニングスツェレ研究会開催

別府大学文学部人間関係学科
教授 篠藤 明德

今年10月21日（土）午後2時から、東京自治研究センターにおいて第3回日本プランニングスツェレ研究会が開催された。大学関係者、青年会議所のメンバー、行政関係者、まちづくりメンバー等30名近くが参加した。異なった分野からの参加は設立以来、当研究会の特色である。今年、市民討議会が、千代田区、立川市で実施され、三鷹市では「みたかまちづくりディスカッション」として、行政も共催し、本格的活動が始まり、社会的に大きく注目された。そのため、第3回研究会は、その事例報告と検討が中心的議題であった。

はじめに、私が「新しい市民参加と討議デモクラシーの連関」のテーマで報告を行ない（本号参照）、その後、3つの事例を報告していただいた。千代田区は三橋仁さんが、立川市は相原邦康さんが、そして、三鷹市は小針憲一さんが報告した。その際、検討しやすいように、以下の点を中心に述べていただいた。

- 1、テーマは適当であったか？
- 2、参加者の募集の仕方、人数、謝礼
- 3、実施機関、実施体制
- 4、日程の長さ、討議のコマ数
- 5、情報提供
- 6、小グループでの話し合いで、話し合いルール、補助員、ワークシートなどの必要性と今後の工夫
- 7、結論の出し方（案の絞込み、投票、合意形成など）
- 8、結果の反映

千代田区の今年のテーマは身近な課題ということで「子育て支援」だった。議論は活発であったが、予想できる議論であったとも言える。今年の大きな特徴は、7月1日と15日に分けて開催した



ことだ。参加者は13名と17名で、区の後援を得て、事前の説明会を昼、夜に設定し6回実施したことが良かった。謝金は1日7000円。実施機関は、青年会議所。討議のコマ数はそれぞれ4コマ、3コマで、短くて良かったという面と消化不良の面が出た。情報提供では、思い入れのある方がPRに終始するということがあった。運営のためにハンドブックを作成し、ワークシートも活用した。結論はいくつかの案を出してもらい投票した。結果は、区に提案として提出した。

立川市は、8月5日（土）の1日でテーマは「市議会と市民の関係」。立川市の特徴は、住民基本台帳を使えなかったため、住所に番号を振って無作為抽出し、メンバーが出席のお願いをポスティングした。この場合、特定個人の無作為抽出ではなく、家単位になるが、その結果、13名参加した。謝金は1万円。青年会議所が主催し、議会と市が後援した。討議は2コマ。情報提供は、同市市議会議員と構想日本のメンバー。畳の上で行ない、雰囲気はとても良かった。

三鷹市は、小針さんが内幕を含め大変興味深く説明した（詳細は、日経グローバル06年10月参照）。その後、行政から見れば実施しやすいのでは、新しい公共空間などの議論とどう関係するのか、など活発な議論が続いた。次回の研究会は07年3月の予定である。

地域社会研究 第13号

発行日 2006年12月20日
発行 別府大学地域社会研究センター
別府大学別府キャンパス
〒874-8501 大分県別府市北石垣82
TEL 0977-67-0101 FAX 0977-66-9696
E-Mail shinoto@mc.beppu-u.ac.jp 担当 篠藤(しのとう)

別府大学大分キャンパス
〒870-0868 大分県大分市野田380
TEL 097-586-0001 FAX 097-586-0006
E-Mail hkaji@mc.beppu-u.ac.jp 担当 梶原(かじはら)

URL <http://www.beppu-u.ac.jp/crc/>